

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀 (ガーベラ)		
所在地	大阪府貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成27年12月13日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2791300094-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活の中で、お客様一人ひとりに役割を持っていただき、楽しく生活していただけるように支援を行っております。近所の魚屋さんへの買い物、お地藏さんのお参り、幼稚園の園児たちを招いての交流等、地域の方とのふれあいを大切にしております。また、季節ごとに恒例行事を取り入れて、皆で季節の移り変わりを感じていただこうとスタッフ一同心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「思いやり 笑顔を大切に」と謳うホーム独自の理念は、職員が夫々利用者への支援目標をシートに記入してまとめ、利用者への思いが結集されたものとなっています。職員はこのシートを活用する中で理念を身近なものとして利用者支援を行い、昔なじみの店に出かけ、地藏詣りや畑の収穫、出来る限り散歩が出来るよう配慮し、幼稚園児がホームを訪れ一緒に遊び園児の喜び楽しみ、また幼稚園から招待があるなどするなど共に笑って楽しめる日々となるような支援に努めています。また、管理者は地域交流に力を入れるべく様々な取り組み、運営推進会議への民生委員の出席やふれあい喫茶の情報を得て参加したり、また介護者家族の会へ参加するなど地域との交流に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に社是と経営理念を唱和し実践につなげている。	理念は職員が考えた思いやアイデアを出し合いまとめてホーム理念として掲げています。職員は支援目標シートを使うことで理念の再確認や見直すきっかけとなっており、日々のケアが理念にそっている事を意識して利用者に関わるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の魚屋さんに、お客様と一緒に買い物に行くように心がけている。お地藏さんへのお参りも、毎日の日課になっている。	地藏詣りや買い物、ふれあい喫茶などで地域の方と挨拶を交わし、祭りには神輿を見る機会等があります。また、傾聴や生け花のボランティアが訪れ、幼稚園からの招待がありったりホームの祭りに来てもらうなど地域の関わりが少しずつ深まっています。管理者は、介護者家族の会に出向きホームの紹介や質問の機会を作ったり、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	貝塚市介護者家族の会(貝塚市社協開催)に参加し、その定期会の中で発表や質問などの機会を設けていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ずホームにて開催している。市の担当者や民生委員、ご家族の参加のもと活動状況を報告し、意見や要望をお聞きしたり、ホームでの問題点などを話し合っている。	会議は、市の介護課の職員や民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加し、一方通行にならない会議となるよう努め、他市のオレンジカフェやふれあい喫茶の情報をもらい参加に繋がっています。議事録を工夫し、ホームの取り組みや意見の収集など職員や欠席の家族にも分かりやすく工夫し、意義ある会議となるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。貝塚市グループホーム連絡会で相談、研修を行っている。	運営推進会議に市の担当者の参加がありホームの実情を知ってもらう中で、民生委員を紹介してもらい運営推進会議への出席に繋がったり、窓口にも出向いて相談しています。市の主催するグループホーム連絡会や研修にも参加し協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束」について、会議等で研修を行っている。玄関の鍵については、夜間以外は常に開いています。	職員は、身体拘束について研修計画に沿って研修を受講したり定期的な勉強会で学んでいます。具体的な事例を用いて身体拘束にならないよう検討し、言葉による制止があれば管理者が注意しています。フロアは鍵を閉めています。玄関は開錠し、出かけた利用時には思いを汲み共に出掛け少しでも拘束感を感じないよう取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、勉強会を開催している。		

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議や勉強会にて制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書に沿って、相手が納得されるまで、わかりやすく説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として、顧客満足度調査を行ったり、管理者を苦情等の窓口として、常に話しやすい環境づくりに心がけている。	運営推進会議や法人のアンケートの結果からも意見がもらえたり、面会時には職員が積極的に家族と関わり利用者の様子を伝え意見を言いやすい様に努めています。言った意見が他の職員に伝わっていないとの指摘を受け、申し送りの徹底や書式を検討し職員間で情報を共有するよう改めるなど、出された意見をサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションを図り毎月の会議等で意見交換を行っている。	毎月行う職員会議は、その場で意見が言いやすいように雰囲気作りを心がけています。また職員の状況や様子を見て個別に管理者が要望や意見を聞くようにしています。会議では備品やレクリエーション、食事についてや日々の介護方法についての意見が出され、検討し実践に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している。		

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントを行っている。ホームの見学等で確認していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいたり、センター方式を活用し、ご家族からご本人の生活状況やご家族の要望などの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ず行っている。場合によっては他のサービスや事業所を紹介することも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物や、掃除、洗濯、料理等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族とも信頼関係を築く努力をしている。ご利用者がご家族と過ごす時間を大切に考えて支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談しながら、入居前に馴染みにされていた場所や知り合いの方との交流を支援している。	親戚や孫、曾孫の面会などがあり場所を選んでもらい寛いでもらっています。家族の協力を得て馴染みの美容院や墓参りなど、家族がドライブがてら出かけています。馴染みの近所の魚屋に利用者と買い物に出かけたり、届いた年賀状の投函を行う等馴染みの人や場との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるように、リビングで座る時の席の配置を考えたり、共通の話題を提供している。		

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、ご家族にいつでも相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族から、なるべくたくさんの情報をお聞きしてケアに活かせるように努力している。	申し込み時の情報や面談で本人、家族から生活歴や暮らし方の希望等を聞き、アセスメントシートに書いてもらった家族からの情報も加え思いや希望を把握しています。入居後職員は日々の観察で利用者への理解深め、思いの把握に努めています。困難時は音楽を流しその時の表情を見ながら落ち着ける環境を整える等の工夫をしたり、また家族からも聞き本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時のケアマネジャーなどから、ご本人の了解の上、情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前に、必ずカンファレンス、モニタリングを行っており、ご家族にも説明し納得の上、サインをいただいている。	初回の介護計画は本人、家族の希望を基に面会時にサービス担当者会議を開き、検討し作成しています。モニタリングは3ヶ月毎にカンファレンスの中で確認と評価を行い、基本的に6ヶ月から1年で更新しています。見直しにあたっては再アセスメントを行い、医師や家族の意見も事前に聞き計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表、個別の介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会長、老人会の方々に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の連携のとれた、かかりつけ医がおり、適切な医療を受けられるように支援している。	今までのかかりつけ医や協力医について説明し、24時間連絡が取れ月2回往診がある協力医に変更される利用者がほとんどです。また系列の訪問看護師とも連携がとられています。利用者の様子の把握や情報の共有を図り、往診の結果は薬の変更等状況によって家族に伝えています。訪問歯科は現在利用者の希望はありませんが、家族には歯科医との相談機会を設け情報を得られるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算にて訪問看護と契約をして、体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院関係者及び主治医、ご家族と連携を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合について書類を交わして説明をしている。	契約時に看取りについて出来る事や出来ない事を書類を用いてホームの方針を伝え、重度化や状況に変化があれば都度医師が家族に説明と意向の確認をしています。老衰の状況下の事例ではその対応方法の指示を医師からもらい、結果救急搬送となりましたが出来る限りの支援した経験もあります。緊急連絡網で関係者との連絡体制を整え職員の不安の軽減にも努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、事故発生時マニュアル等で研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員が立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題に取り上げて、地域との連携に働きかけている。	年2回消防署の立会いの下、昼夜を想定し全利用者と共に避難訓練をしています。水消火器の使用練習や、設置場所の確認や出火場所も変えて火元の確認と通報、避難誘導等の訓練を行い、運営推進会議で報告をしています。また非常災害用の備蓄も準備しています。	災害訓練について運営推進会議で報告をしていますが、今後案内と共に地域にも声をかけ地域との協力関係が築ける第一歩になることに期待します。

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心がけ、プライバシーが守られるように配慮したケアを行っている。	年間の研修計画の中に人格の尊重やプライバシーについての研修があり受講し学んでいます。利用者の排泄の失敗時の職員の焦る声や対応が不適切でないかや心構えについて管理者は指導し、また語尾やニュアンスにも気を配り丁寧な言葉で心を込めて接することが大切であると捉え、言葉遣いについて職員が共通認識を持つよう取組みを進めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の希望や意見を聞いたり、思いを引き出せるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご利用者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や、好きな服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように工夫をしています。準備や片づけなど出来ることは行っている。	献立は職員が立て、時には利用者や買い物に出かけ食事作りをしています。利用者は盆拭きや下膳等出来る事に携わり、おやつやたこ焼きなどを一緒に作ったり、巻き寿司作りでは利用者の出来る事の発見があるなど日々の食事を楽しんでもらっています。また、イベント食は職員も一緒に食べたり、送迎付きバスを利用した外出に出かけています。配食の試みなども行いながら、職員が作る体制に戻し喜んで食事をしてもらえるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記載している。食事量、水分摂取が少ないときは、食事の間にプリンや牛乳など好みの飲み物を聞いて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応している。定期的にはトイレでの排泄を行い、排泄リズムを整えるようにしている。	排泄の記録からそれぞれの利用者のリズムを把握し、トイレで排泄できるよう個々タイミングにそって支援しています。利用者の様子観察を行い失敗の原因を探り、声かけや支援の方法を検討しトイレでの排泄を繰り返すことで失敗がなくなり落ち着かれた事例もあります。また排泄用品の検討を行う中で失敗が減る等、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品、乳製品などを取り入れている。運動・腹圧マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を基本とし、個々にあった支援を行っている。	入浴は週2回午後から入ってもらえるよう支援し、利用者の様子を見ながら声をかけ入浴してもらっています。拒否される時はゆっくり関わることで無理なく入ってもらえています。季節湯として柚子湯や菖蒲湯で入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、状況に応じた支援を行っている。体に負担のあるお客様に関しては、昼寝の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬局と連携を取りながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り役割を持っていただけるように、家事などに参加している。レクリエーションなどを行う場合には、ご本人も一緒に手作りの物を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、買い物など支援している。また、会話の中でご本人から要望等があった場合には、ご家族に協力を仰ぐ事もある。	雨の日以外は車椅子の方も周辺の散歩や地蔵参りに出かけています。買い物で近所の魚屋に出かけたり、家族と一緒にドライブをし遠出の外出としています。神社でのお茶会の出席や近所に咲いている花を見に行き、また畑の草抜きや中庭に椅子とテーブルを置き、戸外に出て気分転換が図れるよう努めています。	

ニチイケアセンター堀(ガーベラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。年賀状のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で、整理整頓が常にできているように心がけている。空調温度もこまめに調節をしている。毎月、季節にあった飾りつけをしている。	広い畑で季節の野菜や花を利用者と育て、玄関に毎月利用者が生花を活け、リビングには季節毎の作品を飾り季節が感じられるよう工夫しています。テーブルで過ごす時は気に入っている居場所があり、ゆったりと過ごされています。床暖房が施され、空調管理や整理整頓、清掃にも気を配り居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る位置については、常に状況を考えながら変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人が馴染みのある家具や布団などを、持ち込んでいただくようにしている。	馴染みの物を持ち込んでもらいたいことを伝えていきます。備え付けのクローゼットへの収納や持ち込んだボックスにも衣類等使いやすいよう整理整頓し身近に置いています。ソファやテレビとテレビ台、仏壇、ベットなど、持ってこられたものは安全面に配慮して配置を決めています。手作りの刺繍作品を飾ったり、歌の本等を持参され、自宅で過ごしてきたような居心地よく過ごせる環境となるよう配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に名前を貼ったり、トイレもすぐに分かるように表示されている。		